



スポ推よこすか

令和年 12月 23日 発行

発行責任者 横須賀市スポーツ推進委員協議会会長 林 但

第60回全国スポーツ推進委員研究協議会 三重大会

11月14日(木)～15日(金) 三重県津市産業スポーツセンター サオリーナで全国のスポーツ推進委員が一堂に会し、スポーツ推進委員の目指す方向や地域スポーツの今日的な課題について研究協議し、スポーツ推進委員の資質向上を図るとともに、生涯スポーツの振興に資するの趣旨のもと開催されました。

大会テーマは「スポーツ・イン・ライフを目指して」～とこわか(常若)な社会の実現に向けて～でした。



開会式前にアトラクションとして皇學館大學邦楽部・・1300年以上歴史ある邦楽の演奏を楽しみました。開会式に続いて各種表彰式が行われ、栄えある文部科学大臣表彰者85名の中に横須賀市の滝瀬絹子副会長が受賞されました。



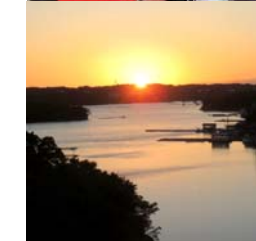
次に「心で走る」をテーマに三重県出身の横浜DeNAランニングクラブエグゼクティブアドバイザー 瀬古俊彦氏より講演をいただきキーメッセージとして、①同世代のライバルこそが自らを強くする(瀬古氏のライバルは旭化成の宗兄弟)、②中村監督との出会いが瀬古氏自身の人生におけるターニングポイントでもあった、描いた夢の実現の為に色々な人との出会いを求めてアクティブに行動することの重要性を痛感しました。また講演の中で瀬古氏が話されていた、友人で元サッカー日本代表監督の岡田武史氏の6つキーワードについて紹

介されました。①何事もプラス思考、②夢を描く、③強い意志(勝とうという思いの強い方が絶対に勝つ)、④挫折・スランプは自らを強くする、⑤試合は今やれることをやる(失敗したらどうしようとは思わない・考えない、⑥チームプレイ(僕1人くらいと思わない事が重要)



その後「新たな時代のスポーツ文化の確立にむけて」をテーマとしてシンポジウムが行われ初日を終了。

2日目の分科会は津市リージョンプラザお城ホールに場所を移し横須賀市として第四分科会「子供・若者のスポーツ活動推進」に参加しました。



そこで衝撃的であったことが全国の子供の70%がスポーツを楽しんでいないとの事でした。地域に於けるスポーツのコーディネーターとしてスポーツ推進委員の役割がますます重要視されている中で家庭・学校・地域をつなぐ懸け橋を担えればいつまでも若々しく元気な、とこわか(常若)な社会実現に微力ではあるものの貢献できると確認致しました。是非皆様と手を携えアクティブに行動していきましょう。

記事 副会長 池田 正英 (桜)

写真 広報部 副部長 新堀 邦明 (富士見)

横須賀市・大和市・藤沢市 スポーツ推進委員 3市交流研修会

9月14日(土)大和スポーツセンター体育館にて、横須賀市、大和市、藤沢市を交えての3市交流研修会が開催されました。



交流研修会プログラムでは9:10~開会式、9:40~第1部:実技研修、(コグニサイズ、ミニバレーボール)、13:00~第2部:情報交換会(場所を移して品珍酒家という中華店)とスケジュールリングされていました。

第1部では、コグニサイズ {コグニション(認知)とエクササイズ(運動)を組み合わせた造語}



少人数(10名位)で輪を作り、足踏みしながら1,2,3...と順番に数え、3の倍数が来たら手をたたく。他にも魚とか野菜の名前を各人が出し合い、前の2人の出した名前を復唱し、新たに、自分の物を加える。(非常に難しく、認知予防に効果大)

次にミニバレーボールでは、1トスで相手コートに返してはダメ、3or4トス目で返すというルールで、この種目はチームプレーと、各人の持つ身体能力が問われるスポーツであることが分かりました。



第2部では、頭脳と体力を消耗した研修会の空気から一転、情報交換会というリラックスしたムードとなり、スポーツ大好きな人の語り、そして、3市の壁など感じられない、にぎやかな交流の場となりました。和やかな雰囲気の中から、面白いエピソードを二つ



・司会進行の方から、横須賀の政治家に朗報が、と言いだした時に直立不動で「私が小泉です。」と名乗り出た人。

・閉会一つ前の方のご挨拶で冒頭に「私が今、噂の海老蔵です。」と言って次年度の参加を促した人もいました。

記事 日下部 重夫(武山)

写真 広報部 副部長 新堀 邦明(富士見)



令和元年度 横須賀・三浦ブロック研修会

11月2日（土）に横須賀・三浦ブロック研修会を横須賀市南体育会館で、今回は横須賀市の担当で行いました。

逗子市：20名、三浦市：15名、葉山町：15名、横須賀市：20名の総勢70名の参加でした。



今回の実技研修は①ポッチャ、②スリーアイズ、③ワンバウンドふらばーるバレーでした。

参加者に今回体験する競技の経験を聞いたところ、ポッチャはほとんどの方が経験があるとのこと、競技の認知度が高く広がりを感じました。

一方、スリーアイズ、ワンバウンドふらばーるバレーは他市の方々には経験がない状況が分かりました。

各競技には横須賀市の担当者が競技のルール・進行について説明をしたうえで、競技を行いました。



研修は、参加者をA・B・Cの3ブロックに分け、①ポッチャ；佐藤研修部長、②スリーアイズ；石川副会長、③ワンバウンドふらばーるバレー；鈴木副会長が担当しました。お疲れさまでした。

3チーム毎に対戦を行い試合時間を設定し、ローテーションして行いました。



全体の進行・タイムキーパーは内村総務部長が行いました。お疲れさまでした。

競技の中でもワンバウンドふらばーるバレーは、チームワーク、体力、俊敏性、認知機能を試される競技で大変盛り上がり楽しみました。



令和元年度 神奈川県スポーツ推進委員研修会

11月23日（土・祝）横浜市港北区にある、「障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール」においてスポーツ推進委員 186名が参加して開催されました。主催者の神奈川県スポーツ推進委員連合会長川口氏のあいさつに始まり、開催地の横浜市市民局スポーツ振興課長の守屋氏から歓迎のあいさつがありました。



内容は2部に分かれ、実技研修として「ポッチャ」と「車いすバスケットボール」の体験及び研修。2部として「障害のある方とスポーツをするために」と題して、横浜ラポールの担当課長：田川氏を講師として講演がありました。



参加者を4グループ、1グループ4チームに編成し行われました。「ポッチャ」の研修は、ミニ試合形式で参加者が審判をして行われました。

「車いすバスケットボール」は1つの車いすに3人が順番に乗り、前進・回転・後退の実技を行い、全体の研修の終わりに代表選手によるバスケットボールの試合を行いました。

ポッチャは何度か経験していましたが、車いすでの移動には、頭と体が融合せずなかなか上手く乗りこなすことが難しく大変と感じました。

第2部の講演では「障害のある方とスポーツをするために」補助する側が、色々な障害の内容によって指導の仕方があり、特に相手の目線に合わせた高さで話をすることが重要であるとのことでした。

また、話の中で「ストークマンデビル病院」のグットマン博士が、戦争などで障害を持った人たちの機能を回復させるため、また失ったものではなく残った機能をできる限り生かすために、スポーツがもたらす効果は非常に大きいとそう確信しました。これが後のパラリンピックにつながり、現在に至ります。



1948年7月28日、英国ロンドン郊外にあるストークマンデビル病院の一角で、その競技会はひっそりと行われました。

日本では1964年に開催された国際身体障がい者スポーツ大会が、東京オリンピック直後に2部制で開催されたのが始まりとされています。

今回の研修で今までは、他人事のように考えていましたが、少しは身近に感じる事ができた研修会でした。

記事 副会長 鈴木 貞男（大楠）

写真 副会長 石川 輝雄（森崎）

編集後記

今年は、雨の多い秋でしたね。それも大きな台風上陸で多くの地域に災害を齎しました。楽しみしていたスポーツフェスタも雨の為に中止になってしまい残念でしたが、来年1月には初めてのグランドゴルフ大会が開催されます。大勢の参加を望みます。そして楽しみですね！！

広報部 部長 鈴木 幸子（汐入）
ホームページ <http://sukataishi.jp>